

第9回日中韓三国保健大臣会合の結果

大臣官房国際課

1 会合の概要

12月4日、韓国・釜山市で、第9回日中韓三国保健大臣会合が開催された。日本からは塩崎恭久厚生労働大臣、中国からは李斌（リ・ビン）国家衛生・計画生育委员会主任、韓国からは鄭鎮燁（チョン・チンヨプ）保健福祉部長官が出席した。また、オブザーバーとして、申英秀（シン・ヨンス）WHO 西太平洋地域事務局長、李鍾憲（イ・ジョンホン）日中韓三国協力事務局次長が出席し、意見交換を行った。その結果、感染症への備えと対応、薬剤耐性、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、高齢化社会、非感染性疾患、ICTとビッグデータの利活用といった共通課題に関して、協力関係の維持及び一層の強化を行うことを内容とする「第9回日中韓三国保健大臣会合共同声明」を採択した。

2 「第9回日中韓三国保健大臣会合共同声明」の概要

(1) 感染症への備えと対応

- ・「日中韓パンデミックインフルエンザ及び共通の課題である新興・再興感染症への共同対応に関する覚書」と「新型インフルエンザと共通の課題である新興・再興感染症対策における共同行動計画」の改定により、検疫分野への協力を拡大する。
- ・WHO 西太平洋地域事務局及び他のアジア太平洋諸国との緊密な協力を通じ、迅速に情報を共有し、域内の公衆衛生上の脅威を監視していく。

(2) グローバル・ヘルス・アーキテクチャー

- ・WHO の新しい健康危機プログラムを歓迎し、更なる WHO 改革を期待。
- ・ワンヘルス・アプローチを推進するため、WHO と協力して3カ国の薬剤耐性（AMR）における連携を強化していく。
- ・3カ国による AMR に関する事務方会合を開催することに合意。

(3) ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）

- ・より低いコストで広範な範囲のサービスを提供しつつ、より多くの保険加入者を確保することを目標に、医療制度強化について努力すべきことを確認。

(4) 高齢化社会

- ・介護保険制度及び地域包括ケア、介護職の養成等について、施策の活発な意見交換を促進する。

(5) 非感染性疾患（NCDs）

- ・受動喫煙防止対策を含めたたばこ対策に関する情報交換と連携を進める。

(6) 医療分野における ICT とビッグデータの利活用

- ・医療分野における ICT とビッグデータの利活用について、互いの取組を共有していく。

3 今回の日中韓三国保健大臣会合の意義

今回、検疫に関し、3カ国の関係者間の迅速な連絡体制を構築することに合意したことは、中国、韓国からの訪日外国人が増えている中、我が国にとって大きな意義を持つ。日中韓の3カ国の保健大臣が一堂に会して、意見交換を重ねることで信頼関係を構築することは、感染症対策や高齢化・UHC等の共通の保健課題において、3カ国の経験を共有し、適切に対応していくために有益である。